～かんなみっ子のすこやかな成長、質の高い乳幼児教育と保育を目指して～

# つながる

函南町幼児教育センターだより16号

令和7年11月発行

連絡先　学校教育課内
幼児教育センター　979－8121

## 第4回接続研究推進会議

8月に開催した第3回の会議では、参加各園校より「子どもの生き生きとしている活動写真」を持ち寄り、子どもの姿（幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿）について語り合ったり、小学校1年生の年間指導計画を基に園と小学校の共通する活動を見つけたりしました。

第4回では、小学校区でグループに分かれ、園の子ども主体の活動について、園から話を聞いた後、園と小学校で共通する活動（交流できそうな活動）を3～4つピックアップし、そのうちの1つについて来年度の交流をイメージしてカリキュラムに入れていきました。

来年度、開催予定の『つながるミーティング』について話をしました。会議の冒頭で指導助言者の寳來先生から「充実した活動を持続させるためには、**活動には互恵性をもたせなければいけない。**」という話がありました。来年度はカリキュラムに入れた交流活動を実施するために、年間計画の中に位置付けていくよう、小中学校の主幹・教務主任研修会で依頼する予定です。実施した活動に互恵性をもたせ、より充実した活動にしていくために『つながるミーティング』があります。また、

『つながるミーティング』は、「**実施した活動に対するふり返り・改善**」をしたり、「**さらにできる活動はないか検討**」しながら、「**園と学校の相互理解**」をしていきます。小学校区ごと、『つながるミーティング』を有効に活用し、充実した持続性のある交流活動の実践につなげていってほしいと思います。『つながるミーティング』には、事務局も関わらせていただきます。

## 今後の活動予定

接続研究推進委員の中から、「今後どのようなことをするのか。」という声がありました。そこで、事務局から、接続研究推進会議の終わりに、今後の活動について説明をしました。これからの取組にご理解とご協力をお願いします。

**令和7年度【フェーズ1（基盤づくり）、フェーズ2（方向性確認・素案検討）】**

①小中学校の主幹・教務主任研修会において
　第4回接続研究推進会議で話し合った、生活科の中で共通する活動のうち1つの活動について、来年度の教育課程の中に位置付けをしていく。
②「つながるブック」の作成

**令和8年度【フェーズ3（実施・検証）】**

①『つながるミーティング』の開催
- 小学校区ごと年3回実施。話し合いが有意義なものになり、互恵性のある交流につなげるためにも、年長の担任と1年生の担任の先生の参加をお願いします。
- 交流活動の実施と改善
- 交流活動実施後、各教科とのつながりや指導のポイントを見直したり、活動の広がりを考えたりしたことを、架け橋期のカリキュラムに入れる。
- 活動のあしあとを残す。
- 園、校職員による保育参観、授業参観の開始

②ゆるやかなスタート（「なかよしタイム」「のびのびタイム」「ぐんぐんタイム」）の定着

③「つながるブック」の改訂

**令和9年度【フェーズ4（改善・発展サイクル）】**

①『つながるミーティング』の定着
- 交流や架け橋期のカリキュラムの見直し改善の流れの定着
- 架け橋期のカリキュラムの完成
- 継続して活動のあしあとを残す
- 保育参観、授業参観の定着

②「つながるブック」の改訂、及び各園・校に配布する

## 活動が動き出した例

東小の萩野校長が接続研究推進会議の途中で、東小とひまわり保育園の交流「合同秋見つけ」をセッティングしました。しかし、当日は天候が悪く、残念ながら「合同秋見つけ」は実施できませんでした。秋見つけは園と小学校で共通する活動なので、交流はしやすいのではないかと思います。今回実施はできませんでしたが、「交流活動を進めよう」という流れができたことは今後に向けて大きな進展であり、きっかけの第一歩となりました。

東小の1年生と、西部保育園の年長児が、日は別々でしたが柏谷公園で秋見つけをしました。1年生も年長児も、どんぐりを拾い集めたり、赤や黄色に染まった葉や形の変わった葉っぱを集めたりしていました。また、栗のいがを見つけたり、バッタなどの虫を見つけたりと、秋を感じていました。

合同で活動することで年長児は「小学校に行っても園で行った活動と同じことができるんだ。」ということが分かり、安心して入学を迎えられるようになります。また、来年度は『つながるミーティング』で活動の振り返りができると、どんぐりを使って作ったおもちゃ等、さらなる交流の輪が広がっていくのではないかと思います。

# 横浜市立東本郷小学校訪問

東本郷小は全校児童 665 名、各学年3～4学級　東小とほぼ同じ規模の学校です。

横浜市は、架け橋の先進的な取組をしています。その中でも、横浜市の取組を牽引している東本郷小学校を、指導助言者の寳來先生に紹介していただき、函南町の架け橋期の取組の参考にするため訪問しました。

東本郷小では、子どもの思いを大切にした教育を行っていました。子どもを一人の人間として、子どもの人権を尊重した教育を行っており、「～しなさい」「何しているの」といった指示的な表現ではなく「どうしたいの」「何でそうなったの」と子どもに寄り添った問いかけが、まるで園の先生が園児に話しかけているようでした。その姿勢が、子どもの自発的な考えや行動を引き出し、主体的に物事を判断する力を育んでいると感じました。

当日は、生活科の「お祭り」の授業を参観しました。 学年主任の先生のクラスの子どもたちが、他の2クラスを招待してお祭りを楽しむというものでした。お祭りは、校長先生もはちまきをするなど、教員も一緒に楽しんでいました。

園でも同じように、年長児が年下の子どもたちを招待しお祭りごっこをしますが、内容としては類似していました。ただ、小学生として成長していると感じたのは、「表現」の仕方です。言葉だけでなく文章にて招待状を用意したり、当日のビンゴ表を子どもたちが作成したりしているという点でした。

## 子どもに考えさせる場面

清掃は休み時間の後と決まりましたが、自主的に掃除をする子どもの様子です。

お祭りが終わった後の片付けについて、「すぐ片付けに入るのか、休み時間の後にするのか。」を子どもたちに決めさせていました。話し合いでは、「休み時間の後」ということになったのですが、休み時間に自主的に片付け、清掃を始める子どもが何人もいました。活動している姿を見て、手伝いに来る子どももいて、結局休み時間中に片付いていました。

また、大きな水槽から水を片付ける作業では、バケツで水を汲み出すのですが、子どものやることなので流しまで移動する間が水浸しになってしまいました。先生方はそれに対して注意することもなく温かく見守っていたのが印象的でした。水浸しの状態を見たら、「汲み出す水をもっと少なくしなさい。」とか「何をしているの。」と注意したくなってしまいます。この様子を見て、「今までの教育観を変えていかなければ。」と感じました。

## 教室の環境

1年生の教室の背面には、模造紙に「あしあと（活動の流れがわかるもの）」が掲示されていました。校長先生に「園のドキュメンテーションのようですね。」と声を掛けたところ、校長先生は「園に学ぶことはたくさんある。これはドキュメンテーションに学んだものです。」と言っていました。

上左は1年生の「大きな紙飛行機」のあしあとです。上右は、2年生の教室に掲示されていた活動のあしあとです。

また、次のようなことも、ある子どもの姿から感じました。「**ルールにしばられない子どもらしく伸び伸びと育てたい**」という考えの基、離席をする子を無理に座らせることはせず、子どものために教室の隅にクールダウンができるスペースを設けてありました。子どもが椅子に座っているのが難しいと判断したときには、自らの判断で利用できるようになっていまいした。

## 園との連携

東本郷小は鴨居保育園と連携して架け橋プログラムに取り組んでいます。入学式の翌日、正門に園の先生が立っていたり、朝の時間に園の先生が歌や手遊びをして子どもたちを和ませたりして、安心して学校生活を送れるように工夫をしています。互恵性をもたせるために、来校してもらうだけでなく、小学校からも保育参観に積極的に出かけているとのことでした。

また、小学校入学説明会では、授業を午前中で終わりにして午後から開催しています。「架け橋プログラムは1年生の担任だけが関わるのではない。次年度誰が1年生の担任になるか分からない。」という考えの基、説明会に出ない全教員が次年度の新入学生に関わり、子どもの特性を知るようにしていると説明がありました。

園の先生が1年生の様子を見るために、学校に来て子どもと触れ合っています。

## 堂腰校長先生のお話より

### ＜架け橋プログラムの取組の成果＞

架け橋プログラムの取組を通して、「子どもの人権を尊重する教育」、「子ども主体の教育」を意識した学校経営を進めたことで、「学校が楽しい（勉強は嫌いでも、学校へ行けば楽しいことがある）」と感じている子どもが増えている。また、園との連携を強化することで、「人と関わる」「伝え合う」ことを意識した教育・保育の連続した実践を進めている。

◇保育士、教員共に「10の姿」でどのような資質・能力が育まれているのかを見取り、教育・保育につないでいく姿勢が当たり前になっている。

◇学びの環境を見直し、整備することにつながっている。

◇一人ひとりの子どもがどういう経験をして、どう発展させていくかを考えるようになった。

◇勉強は嫌いでも学校が好きな子が多くいる。このことが、不登校児童の減少につながっている。

と、教育・保育に対する意識の変化が保育士や教員に見られたり、子どもが前向きに取り組む姿勢が見られたりするようになった。

### ＜架け橋プログラム取組の課題＞

持続性のある活動にしていかなければいくそのために、以下のことを進めていく必要がある。

◇実効性のあるカリキュラム運営と改善の仕組みづくり

◇個人の熱意に依存しない体制づくり（学校組織として「見える化」）

◇幼児教育の実践を基盤とした柔軟な教科指導

◇個々の興味関心や育ちを引き出す環境づくり